

東アジアALS患者在宅療養研究 シンポジウム

立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点では、プロジェクト「東アジア難病患者ネットワーク構築に関する研究」を日本ALS協会（JALSA）と協力して展開しています。ここでは、東アジアの難病患者・家族・支援者のネットワークを構築しながら、東アジアにおける重度障害を伴う難病患者の在宅療養に関する制度および当事者の現状の実態調査を行い、こうした人々の生存を支援する条件を明らかにし、必要な社会システムを提案することを目標としています。

このシンポジウムは、日本・韓国・モンゴル・台湾のALS協会の患者・支援者が一同に会し、ALS患者の療養の現状について情報を共有し意見交換をする初めての試みです。

皆様のご参加をお待ちしています。

日時

2009年

2月21日(土)

13:30～16:30(開場13:00)

会場

立命館大学 衣笠キャンパス
創思館 1F カンファレンスルーム

京都府京都市北区等持院北町56-1

http://www.ritsumei.jp/campusmap/pdf/kinugasa_map.pdf

※駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

プログラム(敬称略) 司会: 松原 洋子(立命館大学大学院先端総合学術研究科教授・グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点事務局長)

開催挨拶

(13:30～)

立岩 真也

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授
グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点リーダー

橋本 操

日本ALS協会会長・患者

※通訳・パソコン要約筆記の用意があります。

※入場は無料ですが、事前参加申し込みが必要です。

※シンポジウムの様子は、インターネットライブ中継モバチュウ特設サイトで配信します。また、このサイトには当シンポジウムに関するメッセージや情報も掲載されています。ぜひご覧下さい。

日本・韓国・モンゴル・台湾からの報告

(13:40～15:00)

[日本]

金沢 公明

日本ALS協会事務局長

和中 勝三

日本ALS協会近畿ブロック会長・患者

[韓国]

Cho Gwang Hee

韓国ALS協会事務局長

Lee Sin Woo

韓国ALS協会・患者

[モンゴル]

Erdenechimeg Ishdagva

モンゴルALS協会・ソーシャルワーカー・遺族

Davaatseren Sergelen

モンゴルALS協会主事・遺族

[台湾]

蘇 麗梅

台湾ALS協会・ソーシャルワーカー

陳 銀雪

台湾ALS協会・患者

パネル討論および質疑応答

(15:20～16:25)

閉会挨拶

(16:25～16:30)

長尾 義明

日本ALS協会副会長・患者

東アジアALS患者在宅療養研究シンポジウム
インターネットライブ中継モバチュウURL: <http://www.i-project.jp/als/>■主催 立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点
立命館大学生存学研究センター

■共催 日本ALS協会(JALSA)

■協賛 科学研究費新学術領域研究(研究課題提案型)
「異なる身体のもとでの交信—本当の実用のための
仕組と思想」(研究代表者 立岩真也)

■協力 東京大学医科学研究所 公共政策研究分野

お申し込み
方法お名前、ご所属(任意)、ご連絡先(電話番号、E-mailかFAX)、住所、車椅子と呼吸器使用の有無、
介助の人数、情報保障(視覚障害/聴覚障害)の有無を明記の上、E-mailかFAXにてお申込み下さい。
なお、定員に達した時点で受付は終了いたしますので予めご了承下さい。

■お申込み・お問い合わせ先

立命館大学生存学研究センター(担当: 植田・佐山)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL: 075-465-8475

FAX: 075-465-8342

E-mail: ars-vive@st.ritsumei.ac.jpURL: <http://www.arsvi.com/>

ars vivendi